

令和7年度職員自己評価

今年度も全職員参加の園内研修を2回行った。7月は「子どもを一人の人間として尊重する行動と不適切な行動を共有し、保育者として望ましい行動とは何か」をテーマにグループワークをした。①子どもを尊重する関わりと、尊重しない不適切な関わりについて意見交換。②ネガティブな態度とポジティブな態度の違いを確認し、ポジティブな話し方について意見を出し合った。1月は「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用し各クラスに分かれグループワークをした。

より良い保育をしていくために、保育運営委員会を設け、「未満児」「戸外（園庭）遊び」「保育全般」に分かれ、現状を振り返り、見直しをしている。

個人的にはそれぞれ、今年度の自分の目標・課題について取り組み振り返り、来年度へ繋げていく。

分析

園内研修では、グループワークにすることにより発言しやすく、様々な意見を知ることができた。特に今年度は新しい職員が4人加わり、新鮮な質問や意見もあり、経験の長い職員にとっては、初心を思い出し現在の自分の保育を振り返るのにより良い機会になった。子どもを尊重する！とかポジティブに！ということを意識することで、子どもたちへの声のかけ方が良いほうに変わってきたように感じる。それは、保護者や職員間でも少しずつ意識できるようになってきたのではないかな。

保育運営委員会では、全職員からの意見を吸い上げることで、園の抱えている課題が見えてきた。特に、未満児の担当制について、それぞれ理想はあるものの意思統一できず来年度も取り組んでいきたい課題のひとつである。

個人的には、ほとんどの職員が子どもたちの主体性や自己肯定感を育み、一人ひとりを大切にしていくことに繋がる目標をもって臨んだ1年だった。が、理想と現実の狭間で多くの職員が「子どもの主体性を育む教育保育」について悩み葛藤している。

評価

「より良い保育（適切な保育）をするために…」ということで、立ち上げられた保育運営委員会では、ベテラン職員だけでなく、若い職員や新しい職員も交え意見交換することで、前進している。すぐに結果は出るものではないがより意識を高め全職員で取り組んでいきたい。特に、未満児の担当制については引き続き検討していきたい。

子どもたちの全身の成長につながる、口育やリトミックの大切さを発信してくれる職員により職員間に少しずつ浸透してきている。口育については来年度、より多くの職員が理解できるように研修会等行っていきたい。リトミックについては、全クラスがより日常的に取り組めるよう工夫していきたい。

多くの職員が課題に挙げている「主体性」。子どもだけでなく、保育者の主体性は…。主体性って？というところから、今一度皆で考えモヤモヤを解消していきたい。来年度の大きな課題の一つとして取り組んでいきたい。

今年は若い力が増え、中にはジェネレーションギャップを感じながら、全職員がより良い保育を！と取り組んでいる。本園にとって今後数年は過渡期となっていくと思われる。次々と出てくる様々な課題に対して一步一步取り組んで保育の質の向上に努めていきたい。